



都市地下空間活用研究会

Urban Underground Space Center of Japan

USJ NEWS LETTER

令和元(2019)年12月 No.14

大阪分科会・第2回講演会「都心三宮の再整備について」

去る10月30日(水)、大阪分科会の令和元年度第2回の会合が、グランフロント大阪の都市魅力研究所会議室で開催されました。今回は神戸市都心再整備本部の清水 陽課長様を講師にお迎えし、「都心・三宮再整備について」というタイトルでご講演をいただきました。阪神・淡路大震災の復興を果たし、神戸の都心三宮の再整備に向けた、将来ビジョン、基本構想・基本計画、さらに主要事業の進捗についてご紹介いただきました。昨年から当分科会の講演会は会員以外の行政や企業にも積極的にご案内し、地方自治体や地下街事業者等、多くの方々に



会場の様子

参加いただき、27名の皆さんが集まりました。以下に講演の概要をご紹介します。



清水課長

神戸市は1995年の阪神・淡路大震災による復興関連投資のため、実質公債比率や将来負担比率が高かったものの、現在はこれらも低い値になってきました。しかし、近年は人口推移が停滞し、特に大阪市、西宮市など近隣市への流出が生じ、将来

に向けた積極的なビジョンの提示が必要な状況となりました。

そこで、神戸市は2015年9月に都心の未来の姿を「将来ビジョン」として示し、三宮周辺地区の「再整備基本構想」をまとめました。続く2018年9月には神戸三宮「えき・まち空間」基本計画を策定しました。これは「三宮クロススクエア」をはじめとする公共施設の計画や、民間施設に期待される

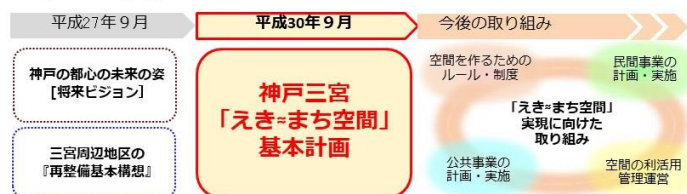
神戸三宮「えき～まち空間」基本計画



1. 基本計画作成の目的

「三宮クロススクエア」をはじめとする公共施設の計画や、民間施設に期待される機能や設えなどについて、**官民共通の具体的な目標像及びその実現に必要な取り組み**を示すことを目的に作成しました。

2. これまでの経緯



3. 「えき～まち空間」の目標像

- ① 三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間
- ② 「えき」と「まち」が行き来しやすく、より便利で回遊性を高める空間
- ③ 美しき港町・神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間

の限られた空間を立体的に活用し、3層(デッキ、地上、地下)のネットワークで各交通機関をつなぎ、乗り換えの利便性やまちへの回遊性を図っています。このうち地下は商業施設へのアクセスを主としながら、一部の鉄道、バス等への乗り換え動線となっています。

以上のほか、清水課長様からは主要事業についての詳細な説明がありました。

バスターミナルが入る再整備ビルの整備

新たなバスターミナルのイメージ

待合空間イメージ

	II期エリア	I期エリア
敷地	5,700㎡	8,300㎡
公共施設	バスターミナル 中規模ホール(多目的ホール、700席程度)	
予定	I期完了後の事業着手を目指す	2026年度頃供用開始予定

再整備ビルの構成イメージ

38

新中央区総合庁舎の整備

【文化施設】
11階 会議室
10階 会議室
9階 特定目的室

【中央区役所】
8階 大・中会議室
7階 市民の窓口・東部衛生監視事務所
6階 総務課・まちづくり課
5階 健康福祉課・中央区社会福祉協議会
4階 市民課・保険年金医療課
3階 こども家庭支援課・健康スペース
おやこふらっとひろば(新2号館側から乗り廊下設置予定)
2階 生活支援課

【文化施設】
1階 多目的ホール

外観イメージ
※今後の構図により変更が生じる場合があります。

主要事業の進捗状況

整備完了
整備中
計画段階

兵庫県庁
えきまち空間
JR駅ビル
バスターミナル
三宮クロススクエア
神戸阪急
本庁舎2号館
東遊園地
第1突堤基部
新港突堤西地区再開発
メリケンパーク再整備
新中央区総合庁舎
プラッツ
KOBEPARKレット
まちなか拠点
さんセンタープラザ
阪急

神戸阪急ビル東館建替計画

展望フロア
▽29階
▽17階
オフィス
▽4階
商業

項目	内容
スケジュール	2021年完成予定
規模	地下3階地上29階 高さ: 約120m 延床: 約28,850㎡
機能	ホテル・オフィス・商業

イメージ

わかりやすい乗り換え(阪急⇄市営地下鉄)

大阪分科会の近年の活動

大阪分科会の活動状況を当会の定時総会における活動報告からその要点を拾いまとめました。次ページの表にこれを掲載します。活動は3つのステージに分けられるようです。2000年代当初は大阪駅北地区・西梅田地区を対象として地下を含めた都市空間のあり方を、特に歩行者ネットワークを中心に分析・検討し方策を提案してきました。その後2011年の東日本大震災を契機として、帰宅困難者対策などへの地下空間の活用、さらに都市再生安全確保計画制度を見据えた調査を進めています。そして現在は広域交通インフラの結節点と周辺整備動向、御堂筋などの道路空間整備の方向性、大阪駅周辺の地下空間の活用方針などを聴き、今後大阪分科会が取り組むべき研究テーマの探索を進めています。

都市地下空間活用研究会 調査研究部会
大阪分科会の活動推移(2008～2019)

		大阪分科会
2003	15	大阪駅北地区と駅周辺の空間再編をテーマに検討。平成16年1月にシンポジウムを開催
2004	16	再開発事業の方向性を見定めながら活動方針の再検討
2005	17	大阪駅北地区・西梅田地区を対象 とした、地下を含めた 都市空間のあり方 について研究を開始。
2006	18	既存地下空間の調査を行い、問題点等について検討。利用者に対する アンケート調査 を行い、 利用者が求める地下空間のあり方 について調査
2007	19	地下広場で流れる人の方向や特性について調査、検討。また各地の地下街のガイドラインについて資料収集。
2008	20	歩行者流動量調査 や 歩行者通行経路調査 を実施し「阪神百貨店前地下広場」の改善方を検討した。
2009	21	地下広場空間の改善策(モニュメント・床材の変更等)の効果を確認するために、 人流シミュレーション を用いて 検証
2010	22	対象を梅田周辺エリアとし、このうち北ヤード2期エリアの地下駅を含む地下空間のあり方について検討
2011	23	梅田周辺エリアを対象 として 帰宅困難者対策 など災害発生時に地下空間を有効に活用する方策を調査
2012	24	利用できる地下空間を検証し、想定される帰宅困難者と受け入れ容量の乖離など把握して帰宅困難者対策を検討。
2013	25	特定のエリアを設定し、帰宅困難者が大量発生した場合の状況を 机上にてシミュレーション を行い問題点と課題を整理。
2014	26	地下街事業者、行政、協議会、更に先進事例である川崎アゼリアへのヒアリング、現地視察。「安全に受け入れる」可能性について検討。
2015	27	都市再生安全確保計画制度を調査したうえで、札幌駅都心地域、および京都市と神戸市についてヒアリングを実施。
2016	28	地下空間にエリアマネジメントの考え方を取込む ことで地下空間利活用の可能性を拡大させるという目標を設定しテーマ探索を開始。
2017	29	広域交通インフラの結節点と周辺整備動向、御堂筋などの道路空間整備の方向性、大阪駅周辺の地下空間の活用方針や管理運営の実例を聴き、今後大阪分科会が 取り組むべき研究テーマを探索 。 セミナー①: JR西日本が取り組む駅及び駅周辺の再開発動向 セミナー②: 都市交通インフラとエリアマネジメント セミナー③: 梅田1丁目1番地計画と関連地下空間の整備・管理について
2018	30(1)	当年度も引き続き セミナー開催 を軸に分科会の今後のテーマを探索。関西エリアの地下空間活用に関連した動向の 情報収集 セミナー①: 東京メトロにおけるまちづくり連携の取組み (東京地下鉄株式会社 常務取締役 望月 明彦) セミナー②: 大深度地下利用について (国土交通省都市局都市政策課課長補佐 福田 悦子)
2019	2	当年度も引き続き セミナー開催 を軸に分科会の今後のテーマを探索。 関西エリアの地下空間活用に関連した動向の情報収集 セミナー①: ホワイティうめだのスケルトン化による大規模改修工事 (大阪地下街(株)常務施設部長 井下 泰具) セミナー②: 都心・三宮再整備について (神戸市都心再整備本部都心再整備部都心三宮再整備課 課長 清水 陽)